

 評価のポイント

CL-2.看護実践能力：ケアする力

[31-2]「がん」の基本的病態生理と回復過程

1. がん薬物療法、化学療法による副作用で、悪心・嘔吐に関して、催吐リスクが高い薬剤、および、3つの異なる作用機序の制吐剤の種類について考えてみましょう。

シスプラチン（ブリプラチン）は催吐リスクが90%以上の薬剤であり、催吐リスク30-90%と中等度の薬剤として、オキサリプラチン（エルプラット）、カルボプラチン（パラプラチン）、イリノテカン（カンプト）、ドキソルビシン（アドリアシン）がある。制吐剤は5-HT₃受容体拮抗剤、NK-1受容体拮抗剤、ステロイド剤の3種類の作用機序が異なる薬剤がある。

2. 放射線による治療はどのようなものか考えてみましょう。

放射線が直接、あるいは、間接的にDNAのらせんを傷つけることで細胞死に至る機序を利用しているのが放射線による治療である。腫瘍細胞だけではなく、正常細胞にも影響することが副作用となる。

3. 60歳代、女性、乳がん患者が術後補助化学療法を行う予定です。その際に脱毛をする可能性が高いレジメンで治療する予定です。化学療法を行う際の関わりについて考えてみましょう。

化学療法による副作用対策として発現時期、種類、予防や対策の方法を説明または指導する。

脱毛については、再び頭髮が生えてくること、ある程度の長さになるまでには時間がかかることを説明する。